

ヤコブ

の手紙

1

「主の御言葉に
真実に生きよ」

ヤコブの手紙 1章 信仰と試練と忍耐

アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 試練は幸い 1章1～12節
- II. 死か命か 1章13～18節
- III. 御言葉の真理 1章19～27節
- IV. まとめと適用

日々、神の真理に生きよう



【新約聖書の中の黙示録】

【福音書】
メシアの生涯

【書簡・手紙】
使徒たちによる手紙 メシアの教え



【使徒の働き】
教会の歴史(最初期)
福音の広がり

【黙示録】
聖書預言の集大成
終末預言

【ヤコブの手紙の評価のいろいろ】

- 読む価値のない「わらの手紙」と呼んだルター。
→ 信仰義認と反するものと捉えてしまった!!
- 「行い」を強調する人々に好まれすぎる傾向が…。
例) エホバの証人。
- 「癒やし」を強調する人々も大好き(5章15節)。

ヤコブ書は、ほんとに、そんなことを言ってる？

誤用される書簡 TOP3 (三浦調べ)



マルティン・ルター
1483~1546

【ヤコブの手紙とは？】

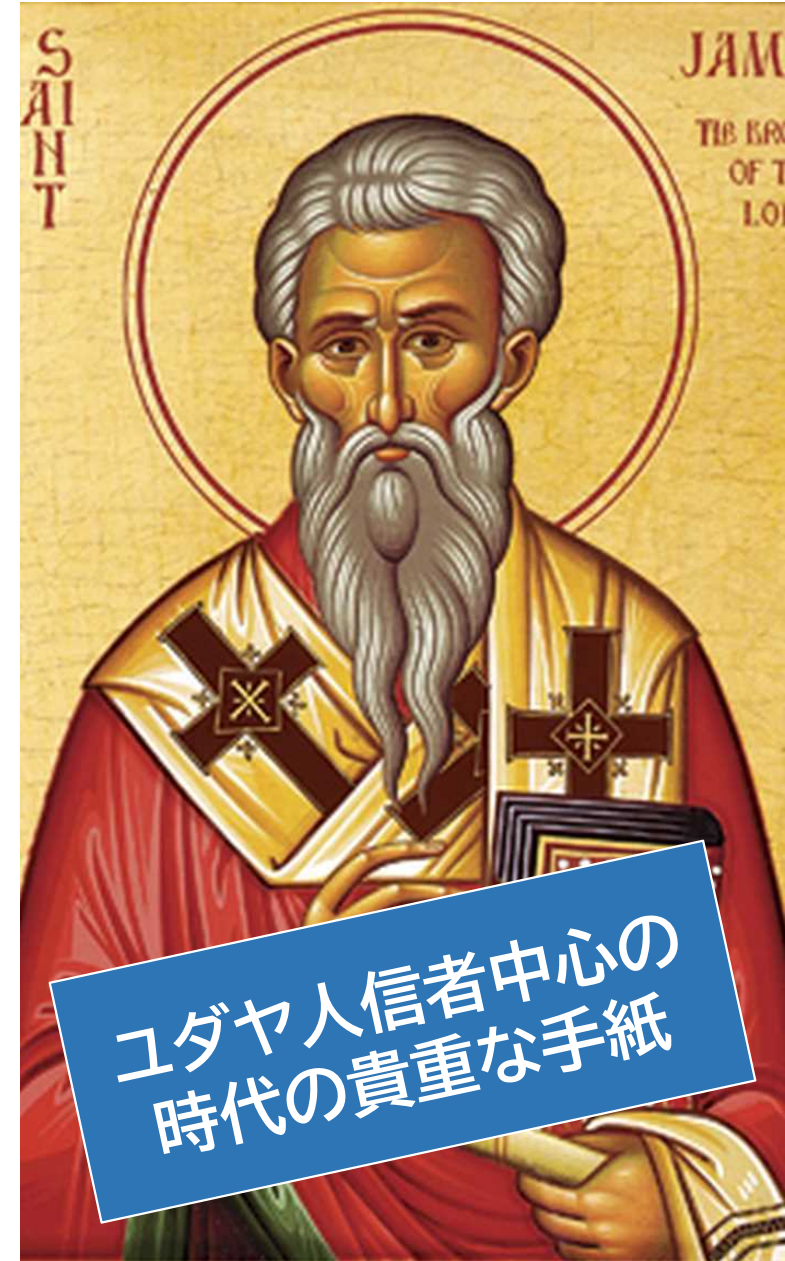
■ **著者** …イエスの実弟ヤコブ。

■ **年代** …45～49年頃。エルサレム会議前か。
➡会議の内容に言及がない!!

■ **場所** …エルサレムか。

■ **内容・目的** …信仰と行いの一致を促す。

■ **対象** …離散のユダヤ人(ディアスポラ)。



【著者のヤコブについて】

■ 名のルーツ

…イスラエル12部族の始祖12兄弟の父ヤコブ。
ヤコブの意味は、“かかとをつかむ”

■ イエスの実弟。

母マリアと共にイエスの宣教を妨害(マタイ12:46)。

■ 復活のイエスと遭遇(I コリ15:7)。弟子になる。

■ ペンテコステにエルサレムで聖霊降臨を体験。

■ 初期のエルサレム教会の指導者に(使徒15:13)。

■ パウロの伝道旅行後、異邦人伝道を支持、承認。

■ 伝承では、62年に殉教死。



【ヤコブの手紙が書かれた時代背景】

- イエスの昇天後、15～20年。
二度の大迫害があり、弟子たちは散らされていった。
★福音は、エルサレム ➡ サマリア ➡ 異邦人へ
- この時代の教会のメンバーの中心は、ユダヤ人。
 - ① 生粋のユダヤ人
 - ② 離散のユダヤ人 (ディアスポラ)
 - ➡ 海外生まれ。国際人。ギリシャ語が堪能。
 - 熱心な人々は律法を遵守。エルサレムを巡礼。
- 対象は、多数になっていた、② 離散のユダヤ人。
アンテオケなど、海外の有力な地域教会も誕生。
実質的な働きは、エルサレムからアンテオケへ移行。



【使徒の時代とヤコブの手紙】

イエスの昇天 1



聖霊降臨・ペンテコステ 2



【ユダヤ人伝道】エルサレム 2~6

聖霊降臨②

ステファノの殉教・大迫害 7



【サマリア伝道】



聖霊降臨③

サウロの回心 9



【異邦人伝道】



聖霊降臨④

ヤコブの殉教・迫害 12

伝道旅行① 13~14

エルサレム使徒会議 15

伝道旅行② 15~18

伝道旅行③ 18~20

パウロの逮捕・監禁 21~26

パウロのローマへの護送・難破 27

【ローマ伝道】 28

オーストラリアへ

パウロ (15年間)

ペテロ (15年間)

【“離散のユダヤ人”の歴史】

■ **アッシリア捕囚**(前722年)。北王国・イスラエル滅亡。

➔アッシリアによる強制移住政策。

■ **バビロン捕囚**(前586年)。南王国・ユダの滅亡。

➔都エルサレムの住民がバビロンに強制連行。

■ **ペルシャ ➔ギリシャ ➔ローマ**による支配。

★地中海沿岸、中東各地に離散が進む。

★主要都市で**会堂**に集い、共同体を築いていた。

■ **ギリシャ語訳旧約聖書**(70人訳聖書)の誕生。

前3～1世紀に、エジプトなどで翻訳。

新約聖書でも多数引用。 ➔ユダヤ教の国際化



【国際化の一方、ギリシャ文化の影響の強まりも！】

■アレクサンダー大王による支配 前333年

王の死後、帝国は分断、セレウコス朝シリアの支配。

➡以降、ギリシャ文化の影響が強まっていく。

ローマの支配(前63年)により、さらに強力に！



■ギリシャ文化の特徴

★多神教 …ギリシャ神話の神々。偶像礼拝。

★人間中心主義 …ギリシャ哲学。古代オリンピック。

★霊肉二元論 …肉体と精神を別々に捕らえる。

精神は肉体より優れている。上位。

← 一神教

← 神中心

← 一元論

聖書的価値観

※反ギリシャの民族運動からパリサイ派が!! サドカイ派はどっぴり!!

【ヤコブ書を読むにあたっての基本】

■ 共同書簡。 ➡ 説教として公に読まれた手紙。

■ 旧約聖書の知識が十分あるのが大前提!!

■ 権威ある教えであり、美しい詩歌(ポエム)である。

➡ 頭で理解し、心で感じ、受け止めるもの。

■ 信仰と行いは、一致するのが当然!!

➡ 信じて救われたなら、行いとなって現れるはず。

➡ 行いを軽視するのも、行いしか見ないのも問題。



ヤコブ書の内容は、初期のキリスト者のイロハのイ



I. 試練は幸い ヤコブの手紙1章1～12節

【あいさつ】 ヤコブ1:1

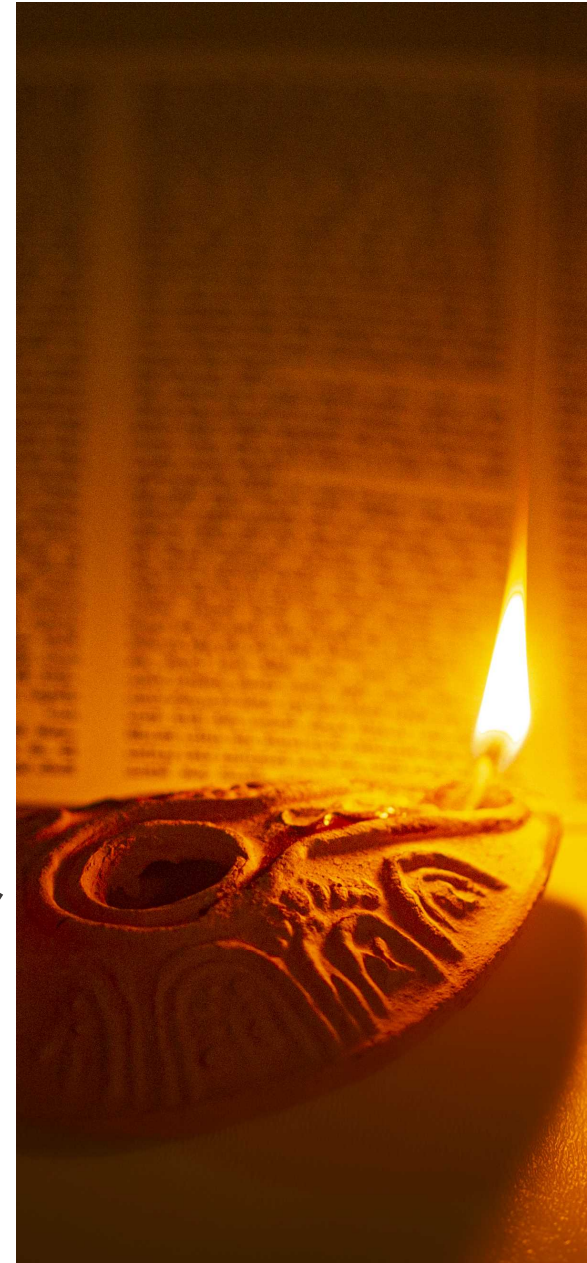
神と主イエス・キリストのしもべヤコブ*が、
離散している十二部族*にあいさつを送ります。

*神とキリストのしもべ。

➡実兄であるイエス・キリストを、超自然的に誕生し
救いの御業を成し遂げた神として信じ、仕える。

*離散している十二部族 ➡ディアスポラのユダヤ人

➡12部族は、失われていない!!



【試練のススメ】 ヤコブ1:2~4

私の兄弟たち。様々な**試練**にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。あなたがたが知っているとおり、信仰が試されると**忍耐**が生まれます。その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、**成熟**した、完全な者となります。

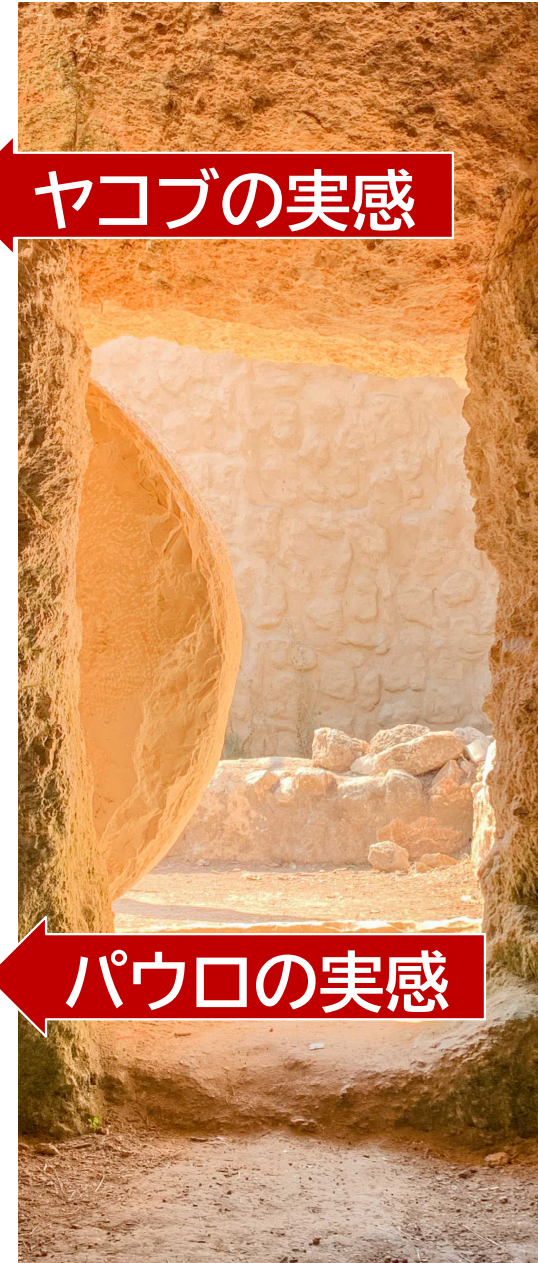
■ イエスを信じたユダヤ人は、同胞から迫害を受けた。

➡ エルサレムでの度重なる迫害と、福音の拡大。

「ロマ5:3~4 **苦難**さえも喜んでいきます。それは、苦難が**忍耐**を生み出し、忍耐が**練られた品性**を生み出し、練られた品性が**希望**を生み出すと、私たちは知っているからです。」

ヤコブの実感

パウロの実感



【求める者に与えられる神の知恵】 ヤコブ11:5

あなたがたのうちに、**知恵***に欠けている人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神に求めなさい。そうすれば与えられます。

***知恵** ➡ソフィア。

「箴言 1:7 【主】を恐れることは**知識**の初め。愚か者は**知恵**と訓戒を蔑む。」（70人訳ではどちらも**ソフィア**）

■**知恵**は、求める誰もに与えられる神からの贈り物。



頭は良くても
愚かな人がいる

IQは低くても
賢い人がいる

【神の知恵を信じて求めよ】 ヤコブ11:6~8

ただし、少しも疑わずに、信じて求めなさい。疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。

その人は、主から何かをいただけたらと思っただけで、はなりません。そういう人は二心を抱く者で、歩む道すべてにおいて心が定まっていなからです。

■ 神の**知恵**は、苦難を乗り越えさせ、真実を見抜き、人を成長させ、成熟させる、約束された**聖霊の力**。

「マタ 7:7 求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。」

求める者に
知恵は絶対
与えられる



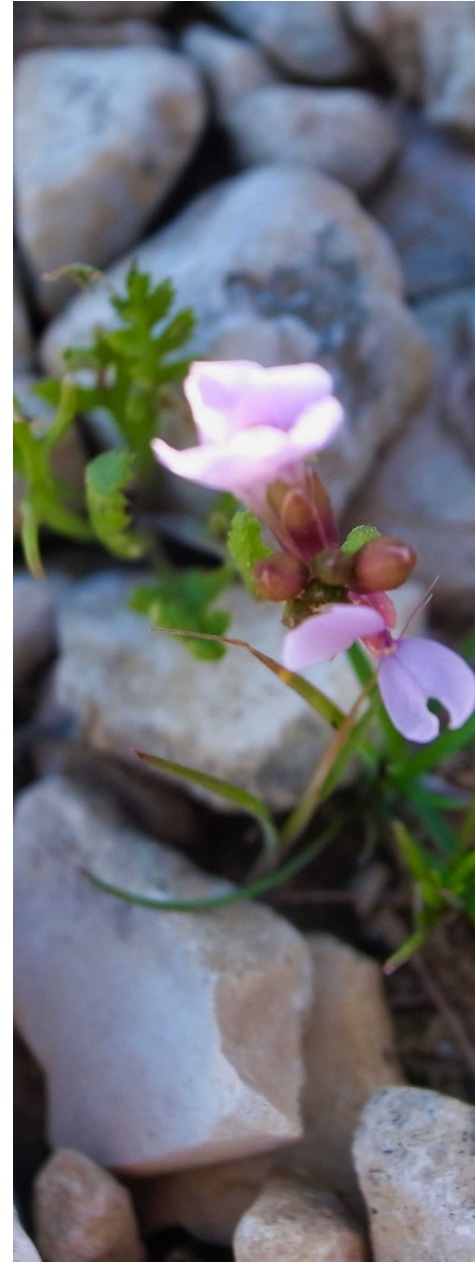
【逆転する価値・普遍の真理】 ヤコブ1:9~10

身分の低い兄弟は、自分が高められることを誇りとしなさい。富んでいる人は、自分が低くされることを誇りとしなさい。富んでいる人は草の花のように過ぎ去って行くのです。

- 奴隷も、一人の兄弟姉妹として教会の一員となった。
- 裕福な弟子たちは、ユダヤの共同体から排斥され、残された富を他の信者に分け与え、貧しくなった。

例) 貧しくなった律法教師ニコデモの娘。

- 特にエルサレムの信者たちは、経済的困窮に苦しんだ。
➡後に異邦人教会から支援金を集めたパウロ。



【命の冠】 ヤコブ1:11~12

太陽が昇って炎熱をもたらすと、草を枯らしめます。すると花は落ち、美しい姿は失われます。そのように、富んでいる人も旅路の途中で消えて行くのです。

試練に耐える人は幸いです。耐え抜いた人は、神を愛する者たちに約束された、**いのちの冠***を受けられるからです。

*** 来たるべき神の国で、主イエスから受ける勝利者の冠。**
「マタ6:30 今日あっても明日は炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこのように装ってくださるのなら、あなたがたには、もっと良くしてくださらないでしょうか。信仰の薄い人たちよ。」





Ⅱ. 死か命か ヤコブの手紙1章13～18節

【欲望・誘惑・罪・死】 ヤコブ1:13~15

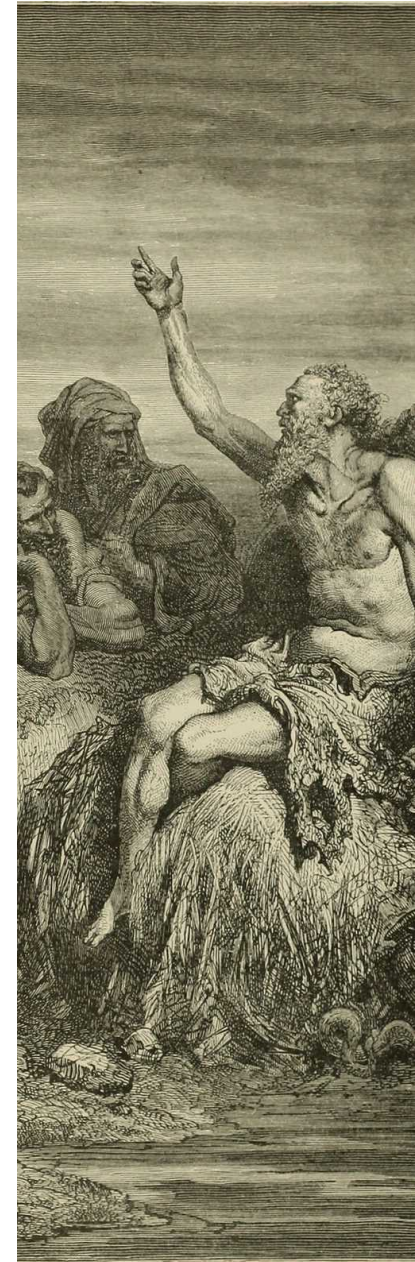
だれでも**誘惑**されているとき、神に**誘惑**されていると言ってははいけません。神は悪に**誘惑**されることのない方であり、ご自分でだれかを**誘惑**することもあります。

人が**誘惑**にあうのは、それぞれ自分の**欲**に引かれ、**誘**われるからです。そして、欲がはらんで**罪**を生み、罪が熟して**死**を生みます。

■ 神は人を誘惑しない。

悪魔が人を誘惑するのを許されることはある(ヨブ記)

■ 人は、自分の**欲望**から**誘惑**され、**罪**、**死**へと陥っていく。



【栄光なる神・真理のことば】 ヤコブ1:16~18

私の愛する兄弟たち、思い違いをしてはいけません。すべての良い贈り物、またすべての完全な賜物は、**上**からのものであり、**光を造られた父**から下って来るのです。**父**には、移り変わりや、天体の運行によって生じる影のようなものはありません。**この父**が私たちを、いわば**被造物の初穂***にするために、みこころのままに**真理のことば**をもって生んでくださいました*。

* 神は光をつくられた方。**栄光そのもの**。

➡ 神の**栄光**が満たす新天新地に影も闇も存在しない。

* キリストの教会の最初のメンバーは、**ユダヤ人信者**。

* 福音を信じて、**新生したのがクリスチャン**。



Ⅲ. 御言葉の真理 ヤコブの手紙1章19～27節

【御言葉に従え】 ヤコブ1:19~21

私の愛する兄弟たち、このことをわきまえていなさい。人はだれでも、聞くのに早く、語るのに遅く、怒るのに遅くありません。人の怒りは神の義を実現しない*のです。

ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことば*を素直に受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。

- 正しい怒りは、神だけのもの*。人の怒りは、ただのエゴ。
- 福音のみことばを信じて人は救われる。
- そして、信じた者は、内住される聖霊の導き*に委ねるなら、変えられて、救いの確信を確かなものとされていく。



【みことばを行え】 ヤコブ1:22

みことばを行う人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者となってはいけません。

- みことばを聞くだけ、聖書を学ぶだけの人は、学んだ真理をごまかし、自分を欺いている。
➡ 神を欺いている。
- 学んだことに応答しなければ、意味がない。
みことばを行うとは、みことばに生きること。
- 主イエスを第一として、日々歩むこと。



【信仰の霊的幼子】 ヤコブ1:23～25

みことばを聞いても行わない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡*で眺める人のようです。

眺めても、そこを離れると、自分がどのようであったか、すぐに忘れてしまいます。

*この時代の鏡は、金属を磨いたもの。鮮明ではない。

■聖書を学んでいる時、説教を聞いている時だけは、クリスチャン。日々の生活の中では忘れている。

➡信仰的に未熟な、幼子クリスチャンの姿。



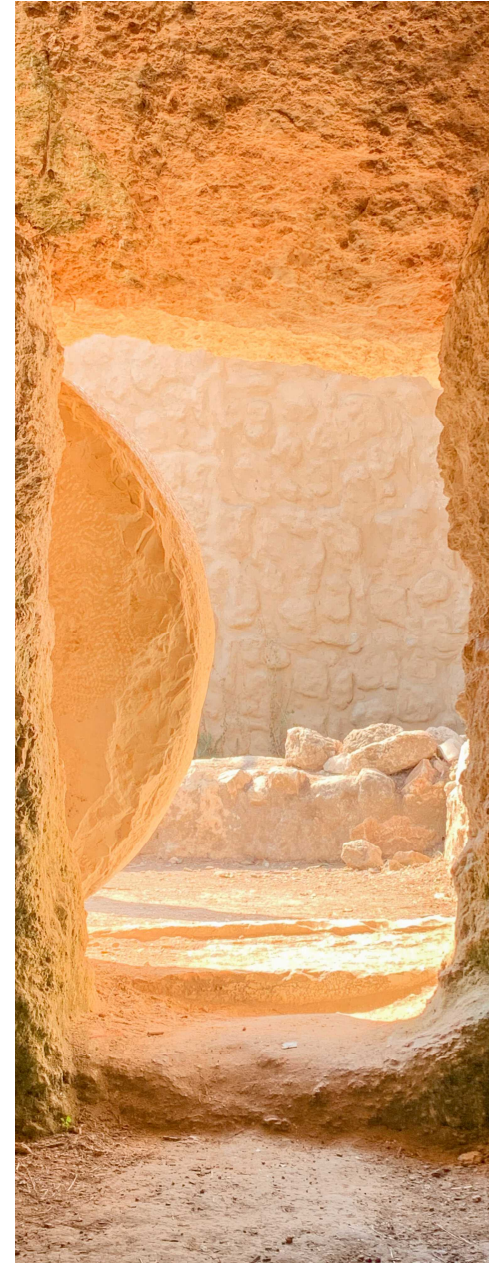
【自由をもたらす主イエスの教え】 ヤコブ1:25

しかし、自由をもたらす完全な律法*を一心に見つめて、それから離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならず、実際に行う人になります。こういう人は、その行いによって祝福されます。*

*主イエスの教え・キリストの愛の律法

*行いが、信じて救われたことと、報いのしるしとなる。

「ヘブル12:2 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず、十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。」



【真実の信仰者】 ヤコブ1:26~27

自分は宗教心にあついと思っても、自分の舌を制御せず、自分の心を欺いているなら、そのような人の宗教はむなしいものです。

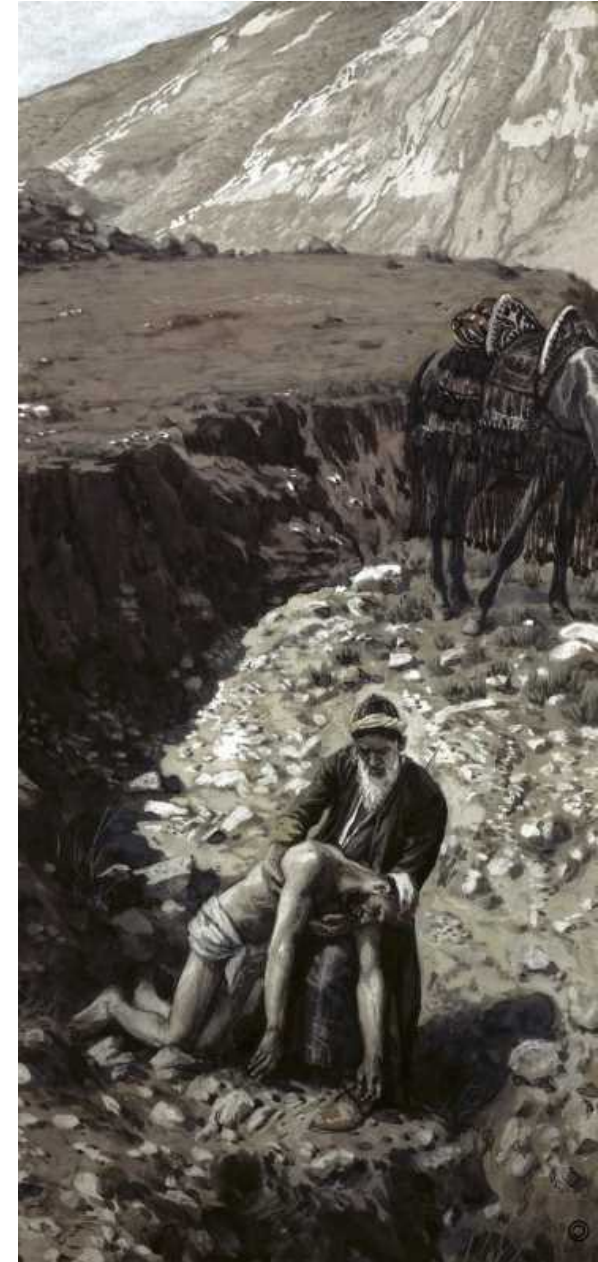
父である神の御前できよく汚れのない宗教とは、孤児ややもめたちが困っているときに世話をし、この世の汚れに染まらないよう自分を守る*ことです。

*律法に記され、主イエスが解き明かされた、

律法の精神そのもの。 ➡「隣人愛、きよめ」

■律法の精神は、キリストの愛の律法に通じている。

■真実の信仰者は、信仰と行いが一致している。





IV. まとめと適用 日々、御言葉の真理に生きよう

【ヤコブの手紙の背景】

- 対象は離散のユダヤ人。律法に親しみ、主に仕えていた信仰者たち。十字架で死に、復活したイエスを、イスラエルのメシアと信じた人々。
- **ギリシャ的価値観**が、一方で、彼らに浸透し、悪影響を与えていた。
➡ 霊肉二元論。「心で信じていればいいじゃないか。」
- **律法主義的偽善**も問題。 ➡ 行いの伴わない、形ばかりの信仰。

ギリシャ的価値観に染まった律法主義者は、最悪!!

【主イエスが教え、成し遂げられた真実の愛】

■聖書の律法の本質は、**神への愛**と**隣人への愛**。(マルコ12:29～31他)

愛は、具体的な行動を伴ってあらわされるもの。

例) 子どもを放置する親は、子どもへの愛が問われる。

■主イエスが、偽善者と厳しく非難されたパリサイ人や律法学者。

律法主義とは、**行いの伴わない教え**。 ➡それが、**偽善**。

■イエスは、「**十字架にかけられ、死んで葬られ、復活された。**」

究極の神の愛は、**真実の行い**としてあらわされた。

■求められるのは、**福音**を神の**真実の行い**として信じること。

➡**信仰は、神の愛への具体的応答。**

【信仰と救いは、行いを伴う成長によって確認される】

しかし、自由をもたらず完全な律法*を一心に見つめて、それから離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならず、実際に行う人になります。こういう人は、その行いによって祝福されます。*

- キリストの愛の律法(主の教え・使徒の教え)*を真摯に学び、主イエスに聴き従う者は、必ず成長させられて、行いの実を結ぶ。
- その最大の祝福は、救いの確信の深まり。そこから生まれる平安。その人は着実に変えられ、成長し、証し人として用いられていく。
- 日々深まる救いの確信はあるか。日々変えられ、用いられているか。信仰と行いは一致する。当然の聖書の原則を心に刻もう。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

信じて救(すく)われた わたしは、主を信頼(しんらい)し続(つづ)けて
成長(せいちょう)させられていきます。

行いをもって、この救(すく)いを 人々に あかししていくことが
できますように。

目の前の課題(かだい)に取(と)り組(く)む、知恵(ちえ)と力(ちから)を
与(あた)えてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」